

第4学年 総合的な学習の時間 学習活動案

	対 象	授 業 者
第 4 学 年 1 組	3 2 名	
第 4 学 年 2 組	3 2 名	
第 4 学 年 3 組	3 2 名	
第 4 学 年 4 組	3 1 名	
第 4 学 年 5 組	3 2 名	

1 単元名:「ひととわたし」

- 1組:「幻の城南小松菜を育てよう！」
- 2組:「うどんを作ろう！」
- 3組:「大豆パーティーをしよう！」
- 4組:「映画を作ろう！」
- 5組:「桜町小クッキーを作ろう！」

2 単元の目標(単元を通して子どもたちが学ぶであろうことから)

自分たちが興味あること、やってみたいこと、探究する価値があることなどについて触れたり、調べたり、体験したりすることを通して、関わるそれぞれの材のよさや身近な人々の思いや願いに気づき、自分たちの課題を解決したり、材の魅力を発信したりする方法を、すすんで考えられるようになるとともに、自らの生活や行動に生かすことができる。

3 育成をめざす資質・能力(育つと考えられる資質・能力)

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解することができる。	実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。	探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする。
<ul style="list-style-type: none"> ①自分自身が興味あることを探究する中で、それぞれの材に必要な知識や技能を理解している。 ②それぞれの材についての理解の深まりは、人と関わりながら探究的に学習している成果であることに気付いている。 ③本やインターネット、インタビューなどを活用して自己の課題に必要な情報を選択・収集し、課題解決のために活用することができる。 ④自分自身が興味あることを探究する中で、自分と他者との相互関係に気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①自分の興味関心が高いものに関わっている大人から話を聞いたり、自分の考えを提案したりすることで見通しをもって課題を設定している。 ②必要な情報を得るために情報収集の手段を選択し、必要に応じてICTを活用して情報を蓄積している。 ③友達の収集した情報と自分の情報を比較して、共通点や相違点を明らかにしたり、関連付けたりして、情報を整理・分析している。 ④自分自身が興味あることについて探究して分かったことや考えたことを、伝える相手や目的に応じてまとめ、適切な方法で表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ①自分自身が興味あることを探究する中で、自分なりの関わり方を考えようとしている。 ②考えや立場の異なる友達と協力して課題の解決に向けて取り組もうとしている。 ③同じテーマを探究する中で、自分の考えを伝えたり、活動に関わったりすることで、集団の中で積極的に行動しようとしている。

4 研究の手立て

○子ども主体の学習になるための手立て

(1)各学級の子どもたちと決めた材

子どもたちと一か月間を過ごし、5月になってから総合的な学習の時間の学習が始まった。それぞれの学級で行った第1時の授業では、子どもたちがやってみようと思うことを出し合い、その中から興味をもった活動を行うことにした学級と、教師が提案した材に興味をもち、とにかくやってみようことにした学級がある。どちらのアプローチにおいても、子どもたちが探究したいと思える魅力的な材になり得るかどうかを大切にしながら考えた。今後、子どもたちと活動する中でさらに発展したり、もしくは新たな材を見つけて変更していったりする可能性もあるが、教師も子どもと一緒に材と関わり、「やってみよう！」「おもしろい！」と心から思える題材を設定し、探究していく。

(2)子どもと共に追究する一人の教師としてのあり方

各学級で材が決まると、1組は畑作り、2組はうどん作り、3組はきな粉やおからのわらび餅作り、4組は映像作り、5組はクッキー作りを行うなど、各学級で教師がそれぞれの材について探究を始めた。子どもと共にやってみて失敗したり、課題が明確になったり、上手くできたことは次に生かしたりしながら探究を続けていく。また、今後は材について詳しいプロの方からも話を聞き、自分たちだけでは解決できないことも、人とつながりながら材についての理解を深めることができるように、準備をすすめる。

○探究的な学びに向かうための手立て

カリキュラム・マネジメント(※後述)

○協働的な課題解決に向かうための手立て

自分と友達の思いや願いを大切にしながら活動計画を立てる

グループ活動の際に、友達と話し合いながら自分たちのやりたいことを見出し、それを実現するためにはどうしたらよいかを相談して内容を決め、活動できるようにしていく。また、活動してみて気が付いたこと、課題、次に生かしたいことなどを共有し、次の活動に生かせるように、振り返りをしっかり行うようにする。

5 キャリア・未来デザイン教育の視点から

	「キャリア・未来デザイン教育」の視点	予想される児童の姿
①	人間関係・社会形成能力(協力・協働) ※他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーションスキル、チームワーク、リーダーシップ等	・グループ内の子ども同士で目標の相談をしている。 ・目標に向かって作業を分担している。 ・プロの方への質問を積極的にしている。 ・他グループと情報共有している。
②	自己理解・自己管理能力(主体性・思考力) ※自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等	・自分がやってみようことなどを決定している。 ・自分が伝えたいことを意欲的に発信している。 ・魅力発信に向けて自分の役割を認識し積極的に活動している。
③	課題対応能力(課題発見・分析・解決) ※情報の理解・選択・処理など、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価、改善等	・課題や活動結果から何を目標にすべきか考えている。 ・得た情報から具体的な取り組みを考えている。 ・プロの方から聞いた話を適切にまとめている。 ・相手意識や目的意識を明確にして、発信の仕方などの計画を具体的に立てている。
④	キャリアプランニング能力(主体性・役割理解・社会貢献) ※学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性への理解、将来設計、選択、行動と改善等	・グループ活動で自分の役割を見つけている。 ・いろいろな人と関わりながら活動することが将来に役立つと理解している。 ・プロの方からのアドバイスを受け、改善策を考えている。

6 「せたがや探究的な学び」の4つのプロセス

世田谷区では、幼児・児童・生徒の実態に即した「せたがや探究的な学び」を通した指導改善に取り組んでいる。世田谷区の児童・生徒の実態は、学力は定着しているが、学んだことが社会で役に立つという実感や、将来の夢や目標の実現への意欲、人の役に立つ人間になりたいといった意志に課題が見られる。学びの中で、自ら課題を発見し、その課題を解決するための「探究のプロセス」を繰り返し、発展させていくことを通して、将来、自己実現を図るために必要な資質・能力を習得できるような学びを推進していく必要がある。

	探究的な学び 4つのプロセス	予想される子どもの姿
1	課題を見出し、把握している	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの活動を進めるために、何をすべきか考えている。 作ったものに対して様々なアドバイスをもらい、今後何をすべきか考えている。 相手が何を求めているかを知り、何をすべきか考えている。 材の魅力を広めるために、何をすべきか考えている。
2	課題解決の方法を考えている	<ul style="list-style-type: none"> 作ったものを食べたり撮影したりして、活動の記録を残すことで、さらに追究している。 材について詳しい人から話を聞き、自分の活動に生かしている。 どんな方法で紹介すれば材の魅力が伝わるかを考えている。
3	協働して学んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 活動する中で、友達と意見を交わしながら試行錯誤している。 自分たちが作りたいものを協力しながら創作している。 材の魅力を伝えるための方法を協力して考え、発信している。
4	学びを振り返り、次につなげている	<ul style="list-style-type: none"> 活動後、今後どのように学習を進めていくか考える。 活動後に振り返りを行い、さらに美味しくする方法を考える。 材についてアドバイスを聞いた後、その情報をどのように活用するか考える。 この経験を、次年度どのように生かしていくか考える。

7 単元について(単元計画・評価の観点) ※後述

8 本時の展開 ※別紙本時案参照